



【共通】

◆生育状況について

5月1日午後5時頃、管内で降雹があり若穂地区の一部で被害が発生いたしました。被害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げます。

各品目ともに前年より7日程度早く満開を迎えた。大きな凍霜害もないため引き続き作業が遅れないよう管理作業を行う。

◆当面する重点作業について

1. 薬剤散布を適期に実施する。
2. 敷きわらをすると共に定期的なかん水を実施する。

◆おうとう・あんず栽培日誌提出について

出荷予定者は、下記期日まで提出する。

1. 提出期限：《おうとう ⇒ 5月20日（水）まで》
《あんず ⇒ 6月4日（木）まで》
2. 提出方法：部会役員さん経由又は、直接流通センター・共選所まで。
3. 留意事項

- 1) 栽培日誌の内容をチェックし、法的に問題がある場合は荷受・販売できません。
- 2) 提出されず出荷された場合、安全性が確認できないので荷受できません。

【プルーン・すもも】

◆第6回薬剤散布について

1. 散布時期：5月23日（土）～5月27日（水）

実際散布月日	月	日
--------	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：4000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000	10ml	—	—
トレノックスフロアブル	500倍	200ml	14日	炭そ病
エクシレルSE	5,000倍	20ml	前日	シンクイムシ類

◆第7回薬剤散布について

1. 散布時期：6月2日（火）～6月7日（日）

実際散布月日	月	日
--------	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：4000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000	10ml	—	—
㊤カナメフロアブル	4,000倍	25ml	前日	炭そ病
ディアナWDG	5,000倍	20g	前日	シンクイムシ類

3. 散布上の留意事項

- 1) カナメフロアブルに代えて、パレード15フロアブル3,000倍（水1000ℓ当り33ml）を使用しても良い。

◆第6・7回薬剤散布共通留意事項について

- 1) 果実同士が密着していると、果実に薬液がつかず、病虫害の発生を助長するため注意する。
- 2) 散布の際、ブルームの流れ、雫による薬斑軽減のため細かい霧で実施する。
- 3) 展着剤を「まくぴか」10,000倍(水100ℓ当り10ml)にすると、均一に付着しやすくなり、乾きが早まるため、液だまりが減少する。

◆仕上げ摘果について

いよいよあら摘果の時期となっているが、あら摘果終了後、仕上げ摘果を実施する。

第3期生理落果が6月になり、摘果が遅れ結実量が多いと生理落果につながるため、遅れないように実施する。なお、隔年結果するため結実量が多い場合は特に適正着果に努める。

1. 仕上げ摘果の時期は、果実が親指大になった満開後50～60日頃(6月上旬までに)
2. 摘果の順序は、品種の特性・樹勢の強弱・着果の多少を見ながら仕上げる。
3. 摘果の程度

すもも	中玉品種	1短果枝に1果を基準とし10cmに1果を目安に行う。
	大玉品種	着果間隔で10～15cmに1果残す。
プルーン	小玉品種	5cmに2果(3cm間隔)、1短果枝に1果(少ない場合は2個鈴成り)
	中玉品種	10cmに3果(3～5cm間隔)を目安に行う。(2～3短果枝に1果)
	大玉品種	10cmに2果(5～6cm間隔)を守る(3～4短果枝に1果とする)

【なし】

◆第5回薬剤散布について

1. 散布時期：5月20日(水)～5月25日(月)

実際散布月日 月 日

2. 使用薬剤(混用順記載) ※調合量100ℓ当り・10a当り散布量：柵400ℓ以上・立木450ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病虫害
展着剤	10,000倍	10ml	—	—
Ⓜ オリオン水和剤	1,000倍	100g	3日	シンクイムシ類・ハマキムシ類
オキシラン水和剤	500倍	200g	21日	黒斑病・黒星病

3. 散布上の留意事項

- 1) 西洋ナシはサビ果が発生しやすいので、乳剤・展着剤は使用しない。
- 2) 農薬再評価に伴うデータ整備に追加対応が必要になったため、『有機銅』を含む農薬について登録変更が行われる事となり、『オキシラン水和剤』収穫前日数(3日→21日へ)変更いたします。

◆日本なし仕上げ摘果について

1. 実施時期：満開後30日～45日(6月初旬頃)までに終わらせる。
2. 着果量：4～5果そうに1果、ただし、1次間伐樹は3果そうに1果とする。

◆南水袋かけについて

1. 薬剤散布後7日以降又は、まとまった降雨に遭った場合は、オキシラン水和剤600倍(水100ℓ当り166g)を特別散布し袋かけを行う。
2. 南水は果柄が短く袋がかけにくいいため、雨水等果実袋内へ流れ込まないように、留め金は果柄にしっかり巻き付ける。

◆西洋ナシ仕上げ摘果の実施について

結実の良い「ラ・フランス」等の仕上げ摘果は、満開後40～50日までに行う。

「ル・レクチェ」等は生理落果が見られるので、落果が終わり次第(満開後30日頃)摘果を始める。

表1 【西洋ナシ主要品種の着果量の目安】

品 種 名	頂 芽 数	摘果時の葉枚数	最終必要枚数
ラ・フランス	4～5頂芽に1果	50枚	60枚
オーロラ・バラード	5～6頂芽に1果	50～60枚	60～70枚

【おうとう】

◆前回 第5回薬剤散布の訂正について

4月28日に発行いたしました情報に一部誤りがございました。お詫びを申し上げますとともに、下記の通り訂正いたします。

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
㊞テルスターフロアブル	4,000倍	25ml	前日	オウトウショウジョウバエ
オンリーワンフロアブル	2,000倍	50ml	前日	灰星病
(カネマイトフロアブル)	1,000倍	100ml	7日	(ハダニ類)

◆着色管理について

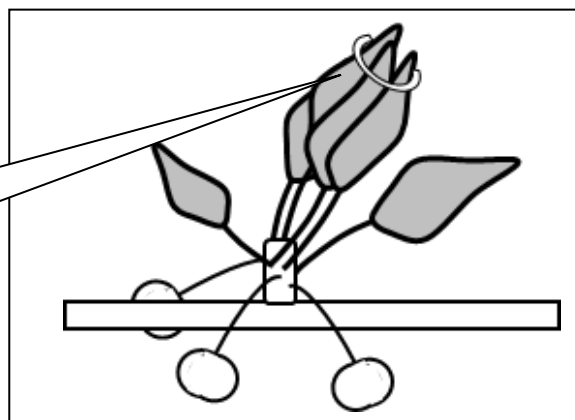
オウトウの着色は多くの日射量が必要。より直接多くの光を果実に直接当てる。

1. 葉つき時期と程度

- 1) 果実の着色が進んでから行う。⇒収穫の7～10日前が目安。
- 2) 早期の葉つきは逆に着色が遅れたり、鮮やかな仕上がりにならない。ウルミ果も多くなる。
- 3) 過度の葉つきは樹勢や翌年の花芽に影響するとともに、果実品質（糖度や果重）に影響する。
- 4) 樹勢が悪い場合は葉つきを行わず樹勢回復を優先させる。
- 5) 果実に覆いかぶさっている葉を中心に、果そう葉の1/3程度を限度に行う。

2. 輪ゴムによる着色向上技術の留意点

- 1) 花束状短果枝の葉を輪ゴムで束ねる。
- 2) 輪ゴムは8～10号の小さいサイズを用いる。
- 3) 束ねる位置は葉の先端とし、葉柄や果柄とからまないうようにする。
- 4) 時期は葉つきと同じ。



収穫しやすい。・輪ゴムは回収しやすく、葉を痛めない。
束ねる葉が多いと病害虫（特にダニ）の発生源になる。・束ねる葉は最小限にし、収穫が終了したら速やかに撤去する。

3. 反射シートの使用時期と留意点について

- 1) 果実が着色し始めた頃に使用する。
- 2) 全面に反射シートを敷くと返ってウルミ果の発生を助長する。
⇒敷設面積は、50～70%を目安とする。
- 3) 枝つき、誘引、徒長枝整理等の管理を行い、光が反射シートに届くようにする。
⇒園内が混んでいれば反射シートを敷いても効果はない。
- 4) 十分に着色した後も反射シートを敷いておくと、逆にウルミ果の発生が多くなる。
⇒着色したら取り除く。

◆特別薬剤散布について

1. 散布時期：被覆直前

--	--	--

 実際散布月日 月 日
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000g当り・10a当り散布量：4000g

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
ディアナWDG	10,000倍	10g	前日	オウトウショウジョウバエ
ナリアWDG	2,000倍	50g	前日	灰星病

3. 散布上の留意事項
 - 1) 病害虫発生が心配される園は、特別散布する。ただし、収穫中品種への農薬飛散に注意する。

【あんず】

◆第6回薬剤散布について

1. 散布時期：5月20日（水）～5月24日（日）（収穫2週間前）

--	--	--

 実際散布月日 月 日
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000g当り・10a当り散布量：4000g以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
ソーゲン	500倍	200g	—	ほう素欠乏
フリントフロアブル25	2,000倍	50ml	前日	灰星病・炭そ病

3. 散布上の留意事項
 - 1) フリントフロアブルに代えて、スクレアフロアブル3,000倍（水1000g当り33ml・収穫前日）を使用してもよい。
 - 2) シンクイムシ類の発生が心配される場合は、㊸オリオン水和剤40の1,000倍（水1000g当り100g・収穫7日前）を加用散布する。

【うめ】

◆第5回薬剤散布について【中梅・大梅】

1. 散布時期：5月30日（土）～6月5日（金）

--	--	--

 実際散布月日 月 日
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000g当り・10a当り散布量：5000g以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10ml	—	—
イオウフロアブル	600倍	166ml	—	黒星病

3. 散布上の留意事項
 - 1) 汚れ軽減のため、展着剤に代えてまくびか10,000倍（水1000g当り10ml）を使用してもよい。
 - 2) 収穫まで、散布間隔が12日以上空きそうな場合、降雨が多い場合は、再度イオウフロアブル600倍を特別散布する。